



35号 平成28年1月発行

〒520-1121 高島市勝野129-3  
TEL.0740-36-2077 FAX.0740-36-0237

清水てつじ  
ホームページ  
http://shimizu-tetsuji.jp

**Q** 高島高校普通科に特色ある教育を取り入れ、魅力的な教育にするようについて

**A** 教育長 40人定員となりましても、医療や産業などのリーダーとなる資質や能力を育成できる教育を提供するため、1年次は、新たに少人数教育を導入し、2年次以降は、文系理系の選択事業ができる人員を配置します。



**Q** 安曇川高校普通科の今後の魅力づくりについて

**A** 教育長 この10年で高島高校普通科120人、安曇川高校総合学科40人の定員削減をしてきました。今春の入学者選抜二次選抜では、安曇川高校普通科22人、総合学科22人定員を下回り、二次選抜で普通科はなお16人定員を下回っています。安曇川高校普通科のこれまでの実績を維持するため、平成28年度入学者定員を1学級削減し、40人としました。

**Q** 安曇川高校普通科の来年度の募集定員が80人から40人に削減されました。どのような状況のもとで決定されたのか

**A** 教育長 この10年で高島高校普通科120人、安曇川高校総合学科40人の定員削減をしてきました。今春の入学者選抜二次選抜では、安曇川高校普通科22人、総合学科22人定員を下回り、二次選抜で普通科はなお16人定員を下回っています。安曇川高校普通科のこれまでの実績を維持するため、平成28年度入学者定員を1学級削減し、40人としました。

## 高島高校・安曇川高校の課題を問う!!



一般質問に立つ  
(11月定例会議)

**一 今後の魅力ある高校教育について**

## 平成28年度予算と施策 「チームしが」として三日月知事に要望

私たち「チームしが 県議団」は、三日月知事に、はじめに、平成28年度の予算編成の基本姿勢をいただきました。

三日月知事は『滋賀県基本構想』と、これを推進するためのエンジンである『人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略』に基づき、『夢や希望に満ちた豊かさ実現・滋賀』の実現に向けて、施策の着実な展開が求められています。

また、財政健全化を進めるとともに、国や市町と連携し、多様な主体との協働も進めつつ、職員一丸となり、果敢に挑戦したい」との答弁をいただきました。

私たち「チームしが 県議団」は、これまでも、これからも、三日月知事と力をひとつに!がんばります。



## JR湖西線 今回完成する防風柵と新たに3区間防風柵設置へ

区間	完成時期
志賀～比良駅間の山側沿線 (約2.5km)	平成28年2月初旬
和邇～志賀駅間の山側沿線 (約3.3km)	平成28年度中
近江中庄～永原駅間の山側沿線 (約3.4km)	平成29年度中
永原～近江塩津駅間の山側沿線 (約1.2km)	平成29年度中

※今回の追加の防風柵が全て完成すれば、強風による運休時間が年間ではほぼ3分の1に減る見込みです。



**再質問**

**Q** 安曇川高校総合学科に他校にはない体育学科などのスポーツに関する学びの充実について

**A** 教育長 学校の活性化や特色づくりとして、総合学科にスポーツ系を設置することですが、国体も目指しながら、地域と一体となり、地域活性化に貢献する意味でも、安曇川高校にそのような方策を考え、学びの充実を進めていきたいと考えます。



**Q** 平成36年二順目国体に向けて高島、安曇川高校の競技力向上の強化拠点指定校について

**A** 教育長 強化拠点指定校に対しては、教員採用試験にスポーツ特別選考を活用し、指導力のある指導者を配置します。強化費の重点配分を行い、優秀な選手の競技力向上が図れるように整えます。強化拠点校は、来年度は全国レベルで優秀な成績を収めている運動部から数校を指定できればと考えます。強化拠点校の指定について、高島高校、安曇川高校両校運動部の実績等を踏まえ検討します。

**A** 教育長 95年の歴史と伝統をもつ地域の中心的普通科高校として、文武両道の校風のもとで、各方面で活躍する卒業生を輩出してまいりました。文科省のスーパーグローバルハイスクールの指定を目指し「しが英語力育成プロジェクト」に取り組み、全国高校生英語大会で1位となり、全国大会へ出場する生徒が育っています。また、「県立高等学校学力向上評価研究指定校事業」の指定校として、思考力や言語力の向上、大学と連携しキャリア教育に取り組みます。

## 関西広域連合 設立5周年

平成22年12月に設立した関西広域連合は5周年を迎えました。今回奈良県が加入し、近畿6府県に鳥取、徳島を加えた8府県と4政令指定都市の合計12となり、今こそ、関西の多様性を活かしながら「関西はひとつ」の理念のもと、関西版総合戦略の策定・推進に取り組むことが必要です。



▲ 9月議会一般質問

▼ 井戸連合会長(兵庫県知事)



高島市にとりましてもドクターヘリの共同運航は大いに成果が出ております。今後、皆様のために、活力ある関西づくりを更に進められるよう努力してまいります。

カウンスーパー方式による東日本大震災への支援、ドクターヘリの共同運航など、個々の自治体では対応出来ない広域行政事務への対応について着実に進めてきました。高島市にとりましてもドクターヘリの共同運航は大いに成果が出ております。今後、皆様のために、活力ある関西づくりを更に進められるよう努力してまいります。

## マキノ町 メタセコイア並木

マキノ観光栗園を縦貫する市道沢牧野線と県道小荒路牧野沢線、延長2.4kmにわたってメタセコイア約500本が植えられており、「メタセコイア並木」として最近のCM放送や各雑誌にも取り上げられ、人気スポットとして大変多くの観光客が訪れておられます。



この並木は、昭和56年に学童農園「土に学ぶ里」整備事業の一環として、マキノ町果樹生産組合が以前あった栗の木が台風被害を受けたことから、栗園の防風林として植えたのが始まりです。そして、平成6年に読売新聞社の「新・日本街路樹百景」に選定され、平成22年11月に「マキノメタセコイア並木を守り育てる会」が設立。関係者の方々により、年に2回清掃活動が実施され、環境保全活動をしていただいております。関係者の方々をはじめ多くの方々に心から敬意と感謝を申し上げます。



清掃活動の様子  
(2015年12月25日)

これからも高島市マキノ町のシンボルである「メタセコイア並木」を観光振興に活かし、高島市民の皆さんと一緒にこの「メタセコイア並木」を守っていききたいと思います。